

鈴鹿・御池岳(1247m) ムーンライト スノーキャンプ

2014年2月15日(土)～16日(日) *満月

L : 磯部S、クボタ、ざ・料理人、磯部N、手塚、やまたくお、市川、川村、YUKA、岩倉、世田

御池岳（1247m）は極端な台形をしていて頂上台地が「テーブルランド」の愛称で呼ばれている。それはすばらしい雪原が広がり、運が良ければ樹氷で木々は覆われ、自然の造形美に感動する。

今回はさらに美しい世界を求めて満月の夜を狙い、月光に照らされた雪原など幻想的な夜の雪景色を見るためにあえて一泊で計画。

しかし残念ながら土曜日は南岸低気圧が通過し、その夢は叶わなかったが、翌日は青空の下、テーブルランドの広く白い世界を堪能した。

2/15(土) 小雨のち曇り

早朝雨の中、降り止むことを期待して浜松出発。藤原簡易 P に到着するも、小雨がしぶとく残る。ここで濡れると後が辛い。限界の10時まで粘って出発。

国道306号冬季閉鎖ゲートの手前 P（側溝ふた無いので注意）に移動し、雨の中出発。

コグルミ谷右岸尾根への取り付けまで林道を約 5 キロ歩く。



冬期閉鎖された国道からの登山口。傘が悪条件を物語る。



テント設営のため整地中。3 張りは大変だった。

登山口（65.8km地点）でようやく雨が止んだ。（ちなみに右岸尾根に乗るためのルートは何本かあるが、ここが最短）

いきなりの急斜面を20メートルほど登って尾根にたどり着いた。中途半端な積雪で滑りやすく、手がかりも無い場所では緊張した。

尾根上は20～30cmの積雪。トレースは無かった。さきほどの急登も無く、ツボ足でゆっくりとしたペースだ。稜線では冷たい風に吹かれながらも主稜線に近づく。めざすカタクリ峠は右の鞍部だが、のっぺりとした地形で左の藤原岳に続く尾根に自然と向かいやすく、注意が必要だ。

カタクリ峠で時間切れとなり、真ノ谷へわずかに下った平坦地でテント泊。チーズフォンデュが誰もいない雪山の夜を盛り上げてくれた。

強風で星も出ず、雪も降って私たちの足跡は跡形もなく消えた。

<タイム> R306冬期閉鎖ゲート手前 P (10:40) – コグルミ谷右岸尾根登山口（65.8km地点）（11:50）
– カタクリ峠テント場(15:20)

2/16(日) 晴れ

ムーンライトは全く無かったが、朝から青空が広がってきた。風も朝は強く吹いたが、出発の頃にはかなり収まった。

体調不良のメンバーもいたため、ゆったりとスタート。ワカン、スノーシューを付けてテーブルランドまで交代でラッセルの練習もしつつ進む。

トレースの無い雪に足跡を付けていくのは、たいへんだけど、気分がいい！

積雪量はヒザくらい。しかし水分が多く重い。スノーシューでは、足を上げるとき雪を持ち上げてしまうため、ここではワカンに軍配が上がった。



全員でラッセル。11人いると楽。



頂上が近づく樹氷が見事になっていく。木々の陰模様が美しい

支尾根を乗っこし、わずかに下って真ノ谷だ。そこからテーブルランドに向けてほぼ直登。最短コースをとれば、きちんとテープが付いていた。
最後の登りの途中から左手上部にテーブルランドの真っ白な平原が見え隠れし出す。やがて斜度も緩み、美しい樹氷の林の中を歩く。



あこがれのテーブルランド！ 奥の丸いピークが奥の平 この3倍以上の面積だ。



御池岳山頂 ここまでノートレースで気持ちよかった。

ようやく東方、奥ノ平の展望台に着いた。広がる白い台地がのびやかで美しい。藤原岳からのきれいな稜線も彼方に広がる。

散策する時間もなくなりつつあるため、それは次回のお楽しみ。早速御池山頂を目指す。10分ほどの散歩道だ。

そこでは伊吹山や養老山地への展望を楽しみ、記念撮影も済ませ、一路下山。



こんな中を歩くのは 夢気分！

テントを撤収して登った尾根をピストンする予定がラストの分岐を誤り、一つ左手の尾根に入ってしまう、林道を1キロ長く歩いて帰った。

地図読みの必要性を痛感。結果的には下りのルートとして安全で最適だった。

初日ゼロ、2日目3人と人に会うことも少なく、雪とおもいきり対峙でき、充実山行となり得た。

<タイム> カタクリ峠テント場(8:20)－テーブルランド(12:10-12:35)－御池岳山頂(12:45)－カタクリ峠テント場(13:50)－登山口(15:45)

<磯部N 記>